

社会資本整備審議会 道路分科会 第7回北海道地方小委員会

議事概要

1. 日 時 平成26年3月5日(水) 9時45分～11時10分

2. 場 所 札幌第1合同庁舎 2階 講堂

3. 出席者

【委員長】

加賀屋 誠一 室蘭工業大学 理事・副学長

【委員】

臼井 純子 (株)富士通総研
エグゼクティブコンサルタント PPP推進担当理事

越澤 明 北海道大学大学院 教授

田村 亨 北海道大学大学院 教授

古屋 温美 室蘭工業大学 准教授

4. 議 事

事務局より

(1) 前回の北海道地方小委員会の議事について

(2) 平成26年度予算に向けた道路事業(直轄事業)の新規事業採択時評価について
について説明

○平成26年度予算に向けた道路事業(直轄事業)の新規事業採択時評価について

【委員からの主な意見】

- ・ 真冬で雪が積もっていて、現在の国道が通れず代替路を想定する場合の役割などにも留意することが、広域的なネットワーク効果の観点から重要。
- ・ 北海道の場合は本州と違い、都市間距離も長いので、医療面而言えば、高次医療施設への搬送時間の短縮ができて、この地域にとってこの道路ができる意味は大変大きい。
- ・ 計画段階評価の区間がフルに整備ができればいいのだが、その途中段階でもかなり大きな期待があることが本日の議論でわかった。特に経済的な面、あるいは、災害の問題への対策は非常に重要。
- ・ 開通するまでの期間を一般的に10年とすると、観光面而言えば、2020年のオリンピックの5年後になるので、その時の日本の状況が見通しづらく、その中で、道路ができて、人が来ないのではもったいないので、地域のポテンシャルを最大化するため、路線の使われ方を地域と共有し、地域と共に将来の姿を描きながら事業を推進するよう、今から検討しておいたほうが良い。

【結論】

- ・ 事務局が説明した一般国道5号（北海道横断自動車道）倶知安余市道路（共和～余市）の新規事業化については妥当である。

○その他

知事意見の記載内容に関し以下のような議論があった。

【委員からの主な意見】

- ・ 現状では、港湾や空港など北海道の玄関口にネットワークが繋がっていないところが散見。特に足寄町～陸別町小利別間、士別市多寄町～名寄市間が当面着工しないとされているためネットワーク効果が十分に発揮されていない。
- ・ 港で付加価値を上げる取り組みをしても、その後の物流ネットワークが繋がっていないと、効果を発揮しきれない。
- ・ 1次産業や観光など北海道の優位性も単独では力を発揮できず、地域間を結びつけることで地域の産業や生活を守ることが可能。
- ・ 3年前の事業評価部会においても足寄町～陸別町小利別間、士別市多寄町～名寄市間の議論があった。これまでの経緯等も踏まえて、検討の手順を具体的に決める必要がある。
- ・ 全国や北海道にとって、それら路線がどうしても必要なのかをしっかりと整理・議論し、社会の理解を得ることも必要。
- ・ 今後の議論では、今回の新規候補箇所のように、社会・経済的効果、道路と産業とのつながりをきちんと示していくことが重要。
- ・ 物流に関する必要性を整理する上では、トラック台数などの貨物量だけでなく、鮮度などの輸送品の価値・金額を評価することが重要。

【委員長による総括】

- ・ 「選択と集中」や経済性を十分に踏まえつつ、北海道の課題解決とポテンシャルの最大化のため、スピード感を持った対応が必要。
- ・ 特に知事意見にもある「当面着工しない」2区間について、第三者も含めた場でよく議論し、その対応を検討することが必要。

以 上